

121083 本条華奈子

3/24-3/28 の 5 日間タイのチェンマイ大学 vascular surgery にて臨床実習を行わせていただきました。

#### 【手術見学】

初日は朝の 9 時に奈良医大から派遣された学生 4 人が集められ、それぞれの配属先へ案内していただきました。私は vascular surgery という奈良医大でいう IVR センターのような大動脈瘤や四肢の動脈、静脈を主にカテーテルで治療する外科へ配属されました。チェンマイ大学ではハイブリッドオペ室というカテーテル治療が行える X 線の機械を備えたオペ室が一つあり、初日私はまずこのオペ室での手術見学からスタートしました。このハイブリッドオペ室は最近出来、カテーテル治療もタイでは最先端のようです。この日は糖尿病性の下肢末梢動脈虚血に対する再建術でした。日本の清潔とは違い、手術の覆う布がディスプレイでは無く、手袋が 1 枚で、ガウンもマスクタイプでは無くゴーグルをしないなど違いがありましたが、大体の清潔の概念は同じでした。手術は難しく、血行再建は不十分なまま終わり、先生は次回切断だと仰っていました。日本は糖尿病でもここまで重症になる患者さんは比較的少ないと思いますが、タイでは依然多いようです。

チェンマイ大学での実習は日本のただ見ているだけの実習とは違い、実践的で大学卒業後医師としての基本スキルはある程度身に付けれるのだらうと思います。6 年生は日本の研修医のようにカンファレンスで発表し、外来で予診を担当していました。学生がチーム医療の一員に入っているのだと実感しました。日本の実習もこのようになれば、もっとより良い実習になるのではないかと思います。

#### 【カンファレンス】

カンファレンスはほぼ全て英語でした。他の科はタイ語のみな科も多いみたいですが、vascular surgery は英語化が進んでいました。術前術後カンファレンスに抄読会が行われました。タイの方の英語のなまりと医療用英単語が分からないこと、もともとの英語力が足りないことで半分も理解出来たかはわかりませんが、何とか理解しようと努めました。医療英語の勉強を今の勉強に並行して覚えていく必要があります。疾患を学ぶ時に英語を調べる癖をつけていきたいです。最終日のカンファレンスで突然教授にこれまでにみた症例を 5 分間で発表するように求められ、とても焦りました。拙い英語でしたが、ドクター達は笑顔で聞いていただけました。このスピーチでも言ったことですが、糖尿病は日本ではスクリーニングや治療体制がしっかりしているためか重症になってくる患者さんよりかは軽症の方の方が多いように思います。しかし、タイでは糖尿病性足病変で壊疽を起こしている患者さんが多かったです。予防をどこまでしっかりできているか、そこが日本とタイの違いだと感じました。

## 【外来見学】

外来では vascular surgery のおおきな処置室に何人もの患者さんが検査や問診をされていて驚きました。ABI を学生が測りその値が検査値として採用されたり、ここでも積極的に学生が診療に参加していました。予診は6年生の学生が担当していました。わたしは処置室と上級医の診察室を見学しました。各部屋にエコーがあり、先生はその場で血管の状態の評価を行っていました。タイ語で患者さんを診察しながら、英語で私に説明してくださり、時折透析用の AV シャントの血管雑音を触知させてもらいました。

5日間で手術見学、カンファレンス、外来見学を通してタイの vascular surgery について学びました。タイで2番目に大きな大学病院だからという理由もありますが、症状の進行している患者さんはタイには多いと思いました。糖尿病の基準もタイでは HbA1c が 7.0 以上ようです。こういった診断基準の違い、また、スクリーニング、病院に患者さんが行くと思うタイミングの違いなども関連していると思います。

チェンマイ大学で臨床実習を行って、日本との違いに驚きました。これは、同じタイミングでチェンマイ大学に留学に来ていた香川大学の6年生も言っていましたが、日本では基本は見るだけの実習です。しかし、チェンマイ大学では学生にどんどん手技を行わせます。そうして、学生も手術室や外来などで率先して医師を手伝ったりしています。タイは、卒業後研修医ではあるが立派な医師としてほぼ手術など以外は1人立ちできるレベルです。日本は研修医になってから実践を積んでいくようなイメージです。日本は患者さんへの安全面を考えると学生が参加するのは厳しいのだと思います。しかし、国試だけのための知識、手技ではなく実践的に学べるように先生方もお忙しいことと存じますが、学生にも機会を与えていただければ幸いです。そして、何より自ら積極的に実習に取り組んでいこうと決意いたしました。

今回のチェンマイ大学留学は私にとっては初めての海外留学でした。英語力も IELTS6.5 ほどのレベルは無くとても不安でした。実際、全てを理解することは不可能でした。何とか断片ずつで理解し、英語を使っていました。この5日間で少しは英語に慣れ、少し自信をもって会話をすることが出来ました。これからグローバル化がもっと進み、英語は必要不可欠です。AIもありますが、やはり自分の言葉で会話することはとても大切だと思います。医療英語も日々の学習を通して習得していきます。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださり本当にありがとうございます。この経験を活かして、これからも誠心誠意努力して参ります。ありがとうございました。

### 【休日、空き時間】

チェンマイ大学の国際交流学生団体の2年生、臨床実習を一緒に回った4年生と5年生と交流しました。学生団体の学生は空港へ送迎してくれたり、授業終わりに夜ご飯に行ったり、休日は朝から晩までチェンマイ観光に連れて行ってってもらい、有名な寺院、タイフードを楽しみました。臨床実習を一緒に回った学生とは実習中の昼食を一緒に食べたり、タイ語を通訳してくれたりたくさん助けてもらいました。タイの人達はとても優しく、私たちが温かく受け入れました。もしまた、彼らが来日した際、私がしてもらったように助け一緒に観光したり恩返ししたいです。途中で起きた大地震もとても怖かったですが、現地の友達が避難指示が解除されるまでずっと一緒にいてくれました。今回の思い出では一生忘れません。チェンマイで出会った方々全員に感謝の気持ちでいっぱいです。



チェンマイ大学の学生団体の2年生と同時期にチェンマイ大学に留学に来ていた香川大学の人と1日遊びました。晩ご飯にチェンマイの伝統料理レストランにも連れて行ってもらいました。他に寺院や動物園なども行きチェンマイ観光を楽しみました。

